



【2日目】部活動派遣費問題を考える 地域円卓会議 in 八重山

孫離島の子どもたちの移動負担の課題を確認し、
支援の方向性を考える。

実施報告書

日時： 2021年12月15日（水）18:30-21:10（受付開始18:00～）
場所： 大濱信泉記念館研修室（石垣市登野城2-70）
共催： 公益財団法人みらいファンド沖縄、株式会社ハブクリエイト
協力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】【2日目】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山



- 日 時：2021年12月15日（水）18:30-21:10
- 場 所：大濱信泉記念館研修室
- 着席者数：6名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：2名（スポーツクラブ等）
- 共 催：公益財団法人みらいファンド沖縄
株式会社ハブクリエイト
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

喜納 正雄（株式会社ハブクリエイト 代表取締役社長）

孫離島の子どもたちの移動負担の課題を確認し、 支援の方向性を考える。

公益財団法人みらいファンド沖縄と株式会社ハブクリエイトでは、「沖縄・離島の子ども派遣基金」と称した、部活動派遣旅費に対する助成事業を行っています。子どもたちの派遣費用の負担は県外や本島地域に比べても高額で、その負担の大きさがしばしば指摘されており、その課題について円卓会議を開催することになりました。2日間にわたり本円卓会議は開催されます。

初日は、子どもたちの島外での活躍が地域にもたらす波及効果を論じながら、派遣される子どもたちへの支援のあり方を問い、2日目は、竹富町や多良間村等のいわゆる「孫離島」における派遣費問題を論じます。

センターメンバー



喜納 正雄
株式会社ハブクリエイト
代表取締役社長



清村 めぐみ
多良間村在住 主婦



入里 沙絵子
竹富町教育委員会
総務課 係長



山下 義雄
八重山高校郷土芸能部
父母会

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 休眠預金を活用した八重山・離島の子ども派遣基金事業で、2021年度は、これまでに5件、計183万円の助成をしている
 - 基本的には、派遣旅費から石垣市教育委員会の補助を引いた個人負担の費用の半額を助成している
 - 野球、バスケ、文化技能、バレエ、テニス、テクノラリー、郷土芸能の派遣に助成をした
- 2020年度は5件103万円ほどの助成をした。新型コロナウイルスの影響でオンライン開催になった大会があり、予定より件数が減った
- 八重山・離島の子ども派遣基金事業で助成の前と後にとったアンケートの自由記述
 - 離島では、参加費の負担が大きい。本島との格差が是正されていないと感じる
 - チームスポーツで、遠征に行く行かないでもめたが、補助により行くことができた
 - 台風で派遣のスケジュールが延びて負担が増えることがある
 - 新型コロナウイルスの感染拡大による精神的負担もあった
 - 年間コストを考え、大会自体をしぼって参加しており、技術向上の機会が減っている
 - 兄弟が多いと負担が2倍、3倍になる
 - 学校、石垣市以外の助成もあるとありがたい
 - 島内だと練習相手も限られ、練習試合の機会が少ない
- 竹富町では、2012年度から町外等派遣費補助事業を実施している
 - 財源は、一括交付金8割：竹富町単独費2割
 - 大会派遣費の交通費（船賃、航空券のみ）、宿泊費（県内のみ）について、上限金額を定めて補助している
 - 2019年度は、1254人に438万円、2020年度は、961人に274万円、2021年度は435万円（12月時点）を補助している
 - 事業開始当初は、スポーツ少年団がメインだったが、個人でしかできない大会、競技もあり、空手、SUP、英語スピーチ等、様々な種目に補助できるよう改善した
 - コーチ、引率者の旅費負担、現地交通費、試合の勝敗、コロナ禍の影響、台風等の予測不能な外部要因で事業費の積算が難しいことが課題
- これまで大会のみの補助だったのが、2021年度から、選抜の練習も補助の対象として認められた
- 保護者から、船酔い対策のため前入りできないかという問い合わせがあった
- 波照間島の船が欠航しやすいため、3日前から石垣島に泊まることもある。どこまで補助の対象とするか難しい
- 役場の派遣費助成について、優先順位や上限があって、八重山代表、個人の大会なのかでも違う
- 学校から竹富町に、派遣費以外で楽器の購入などができないか問い合わせがあった
- 竹富町が行なう部活派遣以外の体験保障として、プールがない学校のプール学習、島では限られた職業しかないため石垣での職場体験など、お金を出している。学校も行事が多いので、いくつか組み合わせて行なっている
- 現在、竹富町役場として石垣庁舎をつくるなかで、宿泊機能をつくっているが、派遣の帯同時にも利用できる予定
- 多良間島は、宮古圏域で、全ての学校行事、大会は、宮古地区で参加する
- 多良間、宮古間の船の移動費は、離島割引で、12歳以上7,200円（往復）、12歳以下3,700円（往復）
- 15年前は、宮古島との関わりがあまりなく、出場していない地区大会が多かった。宮古島から赴任してくる先生を通して、宮古地区とのつながりが強くなってきた
 - 宮古島にはあるが多良間島にないものがたくさんあった。15年かけて、お話大会、音楽大会、英語スキットなど学校行事が多く入ってきた
- 多良間島はミニバスケが強く、10年前は出生率日本で、1クラスの人数が30名以上いて、部活動も盛り上がっていた
 - 10年経つと、少子化で子どもが減り、今は1クラス10名程度になった。人数が少なく、男女別のチームをつくれないので、男女混成で男子の大会へ出るなど、なんとかやっている
 - 親も減って、資金造成も厳しい
- 沖縄本島で行なわれるミニバスケの交流大会は、自由参加だが、多良間島からは派遣費がかかるので、参加条件を宮古地区大会でベスト4以上と父母会で決めている。5位以下でも交流大会に出られるが辞退する

- ・ 多良間島は小学校が1校しかないので練習相手がいない。宮古地区大会に行った時には、負けた時にも試合ができるよう練習相手をあの手この手で探す
- 宮古地区大会の宿泊先は、離島割引と団体割引がある宿に泊まる
 - ・ コロナ禍では、団体への食事提供がなくなったので、食事は、知り合いにお願いしたり、貸し切りできる場所を探すなど、苦労した
- 宮古島内の車での移動は、多良間出身の方からレンタカーを借りたり、無償でレンタルできる知り合いにお願いして、移動している
- 多良間小学校ミニバスケの宮古島での宮古地区大会派遣の支出は、帯同者ふくめ14名で33万円だった
- 多良間小学校ミニバスケの沖縄本島での県大会派遣の支出は、帯同者ふくめ16名で65万円だった
 - ・ 派遣人数は、子どもが最低12名で、帯同者は、監督（先生）1名、世話係2名の計3名
 - ・ 沖縄本島では、多良間郷友会にお願いし、会場への子どもたちの送迎、キーパーの準備などをしてもらった
 - ・ 沖縄本島に行くときは、人数を制限して、低学年は連れて行かない
 - ・ 6年生大会は、学校行事と重なり、行けなかった。今年の6年生は、一度も県大会に出れずに卒業することになった
- 多良間島では、島の行事優先で、学校行事も調整する。今年は、コロナの影響で、大会の日程変更もあった
- 派遣の助成金は、多良間村役場へ何度か増やして欲しいと伝えているが、年々減っている
 - ・ これまでミニバスケ1回の派遣で1人2,000円の助成で、複数回助成をもらえたが、昨年度から年1回になっている
- ミニバスケについて、派遣費用を考えなければ、多良間から、8回（うち県大会3回）大会に派遣したい。500万円くらいかかる
 - ・ 予算を積もうとすると、多良間村の財政では厳しい
- 石垣市と竹富町で派遣費の支援額が違う
- 八重山高校の郷土芸能部は、全国大会の常連校だが、全国大会になると県内の大会とは派遣費の桁が違う
- 石垣島-西表島間の船は、1日5~6便で、費用は、往復5,000円が、離島割引で2,500円になっている
- 八重山高校は、台風になると寮がしまるので、寮生は前もって島に帰される
 - ・ 学校が再開しても、台風の影響で船が欠航するので、遅れてしか学校に行けず、格差が出る
- ・ コロナの影響で学校が休みになったときも、寮が閉まるので、課題を受け取るために一度島から出て、八重山高校に取りに行くと、また戻ることがあった
- ・ 様々な補助もあるが、寮費、生活費が二重にかかり、見えない負担も大きい
- ・ コロナ禍で、分散登校になっても、寮にWi-Fiがないので、寮生は行くしかない。ネット上に課題の様式や資料が出る場合もあり、コンビニに行ってダウンロードして、取り組んでいる
- 西表周辺でも、陸路で行けない舟浮、鳩間島などは、西表島から石垣島の大会に行く定期船に乗るために、船の時間が間に合わないため、船をチャーターしないと行けない
 - ・ 学校が負担したり、PTAが特別派遣費をつくらして活動している
 - ・ 八重山地区大会で優勝しても、船の時間で表彰式に出られない。時間的な制約がある
 - ・ 孫離島は、船が欠航することが多いので、子どもたちは大会に行くために、教科書を持って、引率の先生も授業ができる体制をつくって、石垣島のホテルで授業をしている
- 石垣島は観光地なので、ハイシーズンだと、ホテルが取れない。取れてもホテル代が高く、自己負担が大きい
 - ・ チームで宿がとれない場合、各自で会場集合となり、ミーティングや練習など、団体行動がとれないことも問題
 - ・ 観光地の石垣島が母体となっている課題もある
- スポーツ少年団だと、チームから、審判を出すため、保護者の負担が大きい
 - ・ 保護者が孫離島から地区大会の審判や応援に行くために、金銭的な負担もあるが、時間コストも大きい
- 小規模校では、スポーツと文化系、駅伝大会など、人数が足りないため、全ての選手になり、派遣が重複する。色んな経験ができる良さもあるが、費用の負担が大きい
- 地域をまたいで複数校でチームを組むスポーツ少年団だと、毎日送迎が必要になり保護者間の調整が大変
- 西表島では、団体の派遣でも、取りまとめがおらず、個人で船や会場までの移動の手配している。多良間島では、役員が全て手配する
- 父母会の活動について、土日が練習、大会だと動ける親に限られてくる
- 派遣の資金造成のため、色んな情報を父母会同士で共有する

- コロナ禍では、おきなわ彩発見のクーポンがはじまった。様々なクーポンを活用して、少しでも助成を受けれるようにしている
- 子どもが複数人居ると、保護者会の集まりや資金造成で、日々忙しい
- 地域を成り立たせていた産業構造の変化がある。西表では、これまで農業や漁業といった一次産業で成り立っていたが、今は町民4,300人のうち、8割が観光従事者と言われている
- 移住者が観光業に務めて、子どもが地域のことを知らないまま育つと、子どもの成長、進学に伴って、家族ごと移住してしまう。地域性、伝統行事を守っていくことが難しい
- 今年度、西表島の中学校から、八重山高校への進学希望者がひとりもおらず、沖縄本島や、移住してきた親の実家がある県外へ進学を希望していた
 - 沖縄本島にも寮がある高校があり、個室でwi-fiも使える。一方、八重山高校の寮は相部屋でwi-fiもない
- 空手について、石垣は盛んだが、宮古地区は人数が少なく、本島に行く機会が多い
- スポーツ少年団の大会だと旅費と参加費が出るが、スポーツ少年団は10名からなので、人数が足りない。種目間の格差がある
- 多良間島では、指導者がいなくなると部活が廃部になる
 - 小学校には、部活動はミニバスケ1つしかない。先生は2年ごとに変わるので、住民主体でやる必要がある。先生がバスケの指導ができない場合、バスケ経験のない運動指導士が指導している
 - 空手では、本島から指導者を呼んで、月1回、1泊2日で指導してもらっていたが、コロナで島外から人を入れてはいけなかったので、離島割引がなくなり、1回の旅費が6万円、プラス謝金となると、払えないので、空手がストップしている。そのまま空手はなくなりそう
 - 指導者がおらず、子どもの数が減ると、「もう辞めたらどうか。バドミントン、卓球など1対1のできるスポーツにしてはどうか」という声が出る

評価の提供

- 竹富町の派遣費補助は、領収書を提出して後払いのため、一度、保護者が旅費を払うこととなり、負担が大きいのではないかと
 - 一時的でも立替の負担が大きいので、手出しができるだけないように考えてもらいたい
- 2022年4月に完成予定の竹富町役場の宿泊施設はありがたいが、全ての離島が大会で同じ日に来るので、キャパシティが心配
- 孫離島から八重山高校への進学について、意識が変わってきている。八重山高校が受け皿にならなくなっている
- 地域芸能があり、スポーツが盛ん。東京では、芸能やスポーツは、限られた一部の人が舞台や大会に出る。島では、地域芸能やスポーツに、皆が参加できる環境が良い
- 全校生徒何百人いるなかから選ばれた子どもたちと、全校生徒で県大会に出ても戦える子どもたちのポテンシャルがすごい
- 東京から石垣の直行便など、沖縄は発着空港が多いことは恵まれている

視点の提供

- 子どもたちは、試合を通して強くなるので、1試合でも多く体験させたい。孫離島から、宮古地区大会は全て行かせたい
- 派遣費を出すだけでなく、自治体として様々な支援が必要
- 派遣費専門の旅行社があると良い
- 島の子もたちが部活動で伝統芸能を行う事で、地域それぞれの伝統芸能の継承でき、地域のPRにも繋がっているので、その観点でも支援してほしい
- 子どもたちが地域の担い手となるために必要な体験がたくさんあり、そのひとつに派遣費補助があると良い
- 子どもが進学したきり戻ってこないことは残念なので、Uターンできるように人材育成をしていかなければならない
- 親が移住者だと、賃貸住宅に住んでいて、島に帰りたい場所がない。住居の政策など、島に帰ることが優遇される政策が必要

- 教育、体験の機会を保障するために、財源が限られたなかで、どうバランスを取るか
- 西表では観光だけで人が流動しているため、島に若い世代はいるが、文化の継承はほとんどできていない。親世代も地域を知らない
 - ・ 今まで当たり前でできたことが、今、地域で育っている子どもたちをつなぎとめないと破綻してしまう
- 企業の資金やふるさと納税を、派遣費だけでなく、子どもたちの人材育成にも広げていけると良い
- 地域によっては大人の社会教育もしている。子どもたちだけでなく、子育て世代も学ばないといけない
- 行かせたい大会を全部リストアップして、コストを出してみることで、目標が見えてくる

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) 離島に暮らす子どもたちの移動を制限してしまうことは体験保障の大きな障害であり、教育格差の象徴とも言える。本当にここで子どもを育て続けられるのかという問いかけを。まずは全離島市町村に横串を刺したさらなる旅費負担軽減の施策を提案すべき。少なくとも那覇市の子どもたちの負担と比較しながら具体的な是正プランを立て、県や国に呼びかけたい。
- 2) 人口の少ない離島においては、旅行自体の手配(移動・食事・宿泊・練習場所等)も大きな負担となる。さらに、派遣前の支出も多くその立替費用等があきらめの原因となっている。これらの周辺課題の負担軽減と担い手の担保が必要。
- 3) 観光業中心の離島地域は、土日休日の帯同が困難な場合が多い、何らかの方法で応援できる仕組みも検討事項である。
- 4) これらに必要な財源をすべて行政で賄うことが難しい場合、ふるさと納税等の外部資源の活用もしつかり検討し、特定財源化を目指したモデル事業を検討したい。

■参加者によるサブセッション

孫離島の子どもたちの移動負担の課題を確認し、 支援の方向性を考える。

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・派遣費専門の旅行社があると
- ・団体でも個人手配している
できれば団体行動
- ・郷友会のサポート
- ・役員が引率するという形になっている。手配を含め
- ・宿の取り方もその時その時
- ・竹富町役場の宿泊生もありがたいが…
全ての離島が来るので ※来年4月からの予定
- ・ex、寮に Wi-Fi 無い問題
- ・学校に課題資料取りに、島から取りに行く…
- ・保護者の集まり、造成でとても忙しい
- ・立替してもらえると助かる！ 2人とも
- ・新しい部活にも参加させたいけど…
- ・現金で出せない活動が資金造成している
- ・あきらめの問題
- ・親だけではなく、自治体からもっと
- ・親が観光業していると伝統芸能参加できない
7~8割移住者
- ・地域が続いていない

②

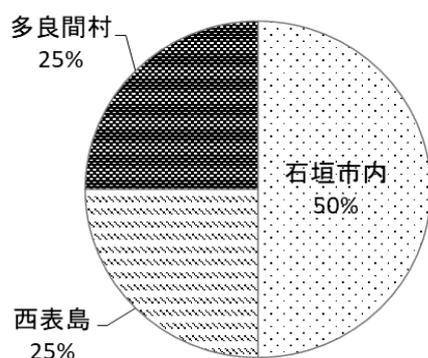
- ・町役場の支援→優先順位
※上限
※八重山代表とそれ以外
※年によってちがう
※個人で行く大会
※線引きをしている (実績とか)
- ・市の支援額高い
- ・父母会→資金助成、コロナでできなかった。部費が上がった。
→動ける親に限られる
→いろどりクーポン
- ・コーチ、審判→親→出来る親だけで、サポートする
- ・道具、消耗品も必要
- ・子ども9人、会計は別
別の学校
- ・島で出来ないから石垣で

【2日目】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山 参加者アンケート集計

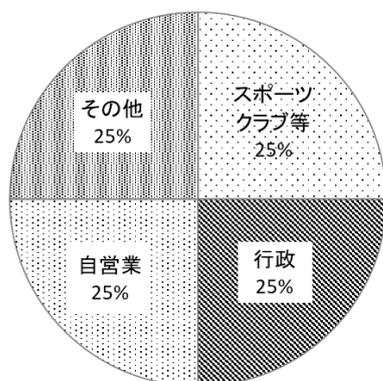
◆概要

- ・日時：2021年12月15日（水）18:30-21:10
- ・場所：大濱信泉記念館研修室
- ・着席者：6名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：2名（着席者含むアンケート対象者5名）
（アンケート回収4名、回収率80%）

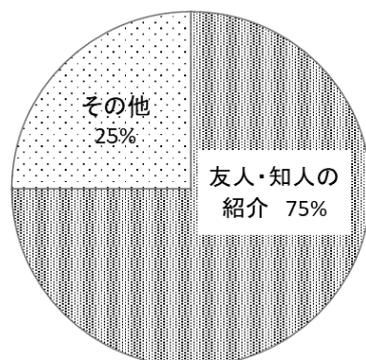
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
2名	2名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 色々な視点からの問題がある事。それについて、根が深い事。とても勉強になりました。
- ・ 多くの気づきや学びがありました。

（4. 概ね満足）

- ・ 自分の地域の不利性を発信することができた。
- ・ いろいろな地域、立場からの状況や意見が聞けて参考になりました。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ ふるさと納税の活用など
- ・ 孫離島でも全く違う問題、似た問題が知れた。産業の変化で文化継承問題につながっている事。多良間でも考えさせられる問題、課題が多くきけた
- ・ 多良間村のはけんひの少なさ… ほけん専門旅行社（町との補助事業やりとりまでおねがいしたい）

(写真) 会場の様子



部活動派遣費問題を考える

2021.12.15(水) ①
18:30~21:10
②大濱信泉記念館 研修室

地域円卓会議 in 八重山

109回目 **2日目**

孫離島の子どものための
移動負担の課題を
確認し、支援の方向性を
考える。

<司会>
平良斗星
おひろい沖縄

<論点提供>
喜納正雄
ハブクリエイト

入里沙絵子
竹富町教育委員会

清村めぐみ
多良間島在住主婦

山下義雄
竹富町議会議員
八重山高校 郷土芸能部
父母会

共催 公益財団法人おひろい沖縄, 株式会社ハブクリエイト
協力 NPO法人 まちなが研究所 わくわく

論点提供

喜納正雄 さん

ハブクリエイト

2021 5件 1833円 補助
野球・バスケ・文化芸能
テニス・テフノラー

自己負担の半額も補助

2020 5件 1033円
コロナの影響

- 道具・用具にもお金かかる
- 台風の影響
- キカイの少なさ
- 代表とったが、行くかどうかギリギリ
- 兄弟3名など までもめた
- 大会しぼって出場

入里沙絵子 さん

竹富町教育委員会

H24 ~ 町外等派遣費補助事業

一括交付金活用 8:2(町)

交通費・宿泊費・船賃・航空費

R1	1254円	438円
R2	961円	274円
R3		

英語スピーチ
スポーツ少年団 + 個人 空手 SLP

課題

- コーチ・引率者
- 現地交通費
- 予測不能な外部要因で事業核算むずかしい
- 選ばつの練習認められた(R3)
- 船より対策前入りできず
- 補助あと払い、一度負担

用具・参加費

楽器の購入なども

清村 めぐみ さん

宮古 I13

宮古地区とのつながり強くなってきた

宮古にあるけど多良間になっもの

お話し大会・音楽大会など

学校の活動多く入ってきた

15年かけて

ミニバスケット 父母会

子どもへった 1クラス10%とか

島の行事優先

大会参加できないこと

男女混成で男子の大会へ

親も入る

県大会へ行くラインも

3

父母会で決めている

バス4以上 (行けるけど辞退)

宮古

地区大会は全て行かせたい

練習相手がない

あの年この年でセカオ

1試合でも多く体験させたい

多良間 ↔ 宮古

6年生 ~ 7200円 (往復)
~ 5年生 3700円 ()

宿泊 (離島割引・割引)

しJ10+で食提供なし

食事 - 朝食食べる所がない

レンタカー

大会参加費・登録費

33万円

大 8%
子 6%

人口減少 本島 65万円 (県大会)

山下 義雄 さん

竹富町議会議員
八重山高校 郷土芸能部 父母会

高校のない島として

全日本大会になると金額495千円

台風 → 察しまる・島へ

戻らない 戻るとおける

格差 できてしまう

定期船がない → 西表内での物移動

チャーターしないといけない

学校・PTA

教科書もって

授業できる体制でる垣へ

船の時間で表しう式でれない

ホテル高い時期の自己負担(大)

審判 - 保者の負担 - 仕事

時間コスト負担大きい

派遣の重複も

4

キボ校・あれもこれも

チーム組めないの複雑な校の子でチーム組む → 送けの負担

石垣 - 西表 5~6便/日

宿とれないと 5000円 → 2500円 (往復)
団体行動とれない (大) (離島割引)

自治体としての支援

派遣費だけやればよいというものではない

= サブセッション =

優先順位

個人と〇〇

支援額 (石垣市-竹富町)

いろいろクーポン
クーポンの活用

資金造成

一部の人の
負担増

親の
参画問題

ハケン費専内の の旅行社ほい

役員が
全て年配

それぞれで
年配

2022.4月
役場の宿泊
ありがとう

保コ者の
集まりたい人

察しする
心配ない
問題

たかえの負担
大きい

あきらめの
問題

継承

地域として
ありがとう

伝統芸能

PRに貢献
している

今までできてきたこと 世代間の物々

子どもたちなぎとめないと
ハタンしてしまう

地域の人材育成

担い手

たくさんある柱の
1つとして

あきらめを
へらした

教育・体験
のキカイ保障

予算・財源 バランス

産業構造
の変化

4300人
8割観光

西表の庁舎
にホールも

離島
物々
不利性

格差是正

ホール
ない
学校
体験学習
の
授業費

八重山高校
が愛血にならなく
なっている

本島1回60回
ミニバスケット
8回行かせたい
(県3回)
500万円かかる
が長回

ポテンシャル
高い子たち
県レベルで
たかえ

指導員
いない
住居
主体
先生よぶ
のに
6ヶ月
継続

物住者の子
地域のこと
知らないまま

地域の伝統を
守るには...

大人の
社会教育

島に帰る
ことが優遇
される政策

住宅
政策

ひとり
2000円
去年から
年1回だけ
(タタ良良)

大会による
種目間格差

空手
本島行くキカイ
22!!
スポーツ少年団は
10名から(でも5名)

芸能) みんなが
スポーツ) 参加している
こうした環境すばらしい

東京-石垣 直行便

部活全体でやる

コスト調査

比較必要

時間コスト 子ども 土日は
観光業の大人 必ずかき

中継して体験応援

地域の人から子どものかわしをみうれる

財源 - みるさと納税

新たな財源づくり

ハケノのせは... 午配のコスト (食事・宿泊...)

レジャーとしての機能

キックプロ -> 先だしするキウ

本島レベルへ.

なのはのチームと同じような体験のキカイ ホシのウ



- 用具.
- ・ 試合キカイ.
- ・ 指導者.

森永社
 山下社
 清和社
 (善政)

山下社
 ・派遣専門の旅行社が在り
 ・団体旅行の手配に在り

清和社
 ・親皇の御葬儀に在り
 ・福元社

山下社
 ・不慮の場合、受入が在り
 ・有る限りの在り
 ・竹富町役場の生活も在り
 ・全社社員が在り
 ・Wi-Fi, 学費、奨学金に在り
 ・保護者の集り、在り
 ・お茶の会に在り

清和社
 ・折上、折下、折中、折上、折下、折中
 ・現在、出せぬ、在り

山下社
 ・在り、在り、在り
 ・在り、在り、在り

清和社
 ・在り、在り、在り

野球部 父会 平地社
 大塚中
 ・竹富町 教育委員会 入里社
 ・TAMPIA 石田
 ・DT 役員の手配 → 橋本順位 * 上PR
 ・市の支援額が在り * 毎年の在り
 ・父会 → 資金助成、コト、在り * 個人で行く大会
 ・1-4. 審判 → 在り * 在り
 ・道具、清和、在り * 在り
 ・子ど、在り、在り * 在り